

現行計画

の骨子

I  
一人ひとりに応じた生活支援のしくみをつくる

1 情報提供と相談支援の充実  
➢ 障がい者福祉に関する情報提供の充実  
➢ 総合相談支援体制の確立  
➢ 権利擁護に関する支援

■情報について  
・福祉制度の詳しい情報が十分に住民に伝わっていないことがあったため、情報発信の工夫が急務。  
■相談体制について  
・特定相談支援事業所等の充実により障がい者や家族等の不安が減少してきたが、まだ充分ではない。  
・障がい、高齢、子どもといった縦割りの相談体制では対応できない案件が増えている。

2 生活を支援するサービスの推進  
➢ 福祉サービス等の充実  
➢ 家族介護者等への支援  
➢ 住まいの確保  
➢ 経済的な自立に向けた支援

■サービスについて  
・必要な人に必要なサービスが届いていない。  
・自分の体調に合わせてサービスの形態を選べる必要がある。  
・人材の確保やサービスの充実・質の向上が課題。  
■制度について  
・介護保険事業者の障がい者支援についての理解の促進。  
■介護・介助者について  
・介護・介助の方の負担を軽くする取り組みがこれからも必要。  
■生活支援について  
・経済的に苦しい障がい者をフォローする必要がある。

3 保健・医療・福祉分野の連携体制の強化  
➢ 健康づくりへの支援  
➢ 保健・医療・福祉分野の連携体制の強化

■保健・医療について  
・医療機関に対して、障がい福祉制度と相談体制についての説明が必要。  
・医療的ケアを必要とする障がい児に対応できる医師が少ない。

1 一生涯を通じた生活支援システムの確立  
➢ 発達支援体制の確立・推進  
➢ 自立した地域生活のための支援  
➢ 高齢になった障がいのある人への支援

■発達支援について  
・発達については専門医での診療が必要であり、ニーズが高い。

■その他  
・新型コロナウイルス感染症の障がい者福祉計画への影響も考慮すべき  
・「健常者」「障がい者」という分類以前に、人としてあたりまえの思いやりや尊重で伊賀市が包まれるような政策であってほしい

II  
生涯を通じて社会参加できる共生のしくみをつくる

2 早期療育と保育の充実  
➢ 障がい児の早期療育の充実  
➢ 障がい児保育の充実

■教育と療育について  
・小学校特別支援学級が急激に増え、障がい児を分離する教育が内包する課題について検討する必要がある。  
・学校の支援体制にも限界が出てきている。  
・中高生や18歳以降の障がい児に対するサービスの充実が課題。  
・保護者は、子どもが通う小学校は地域の学校にするか特別支援学校にするかという学校選択をせまられるなど、就学前から悩んでいる。

3 学齢期の子どもの教育・療育の推進  
➢ 特別支援教育の充実  
➢ 放課後や長期休業中の活動の場の確保

■就労について  
・障がい者が得ることのできる収入額を上げるしくみづくりや就労種目の見直し、一般就労への支援の充実が課題。  
・高校と福祉機関との連携が密であれば、卒業後の就職先についてより働きやすい環境につなげることができる。

4 就労支援の推進  
➢ 就労支援ネットワークの強化  
➢ 企業等における障がい者雇用の推進  
➢ 福祉的就労の充実

■居場所づくりについて  
・障がい者も気軽に参加できるサークルなど、健常者の押しつけではない「誰もがいられる居場所づくり」が必要。  
・自分で自由に行ける「誰もがいられる居場所」があれば、そこでさまざまな人との交流ができ、それが「地域でのつながり」になる。

5 社会参加活動の推進  
➢ 生涯学習等への参加の推進  
➢ 当事者活動の充実

■市民への啓発について  
・障がい者に対する認識や知識が少ない。  
・精神障がい者や内部障がい者は外見ではわかりづらく、その点から差別を受けやすい。  
■地域福祉活動について  
・ボランティアの高齢化が課題。

III  
だれもが心地よく安心して暮らせるまちをつくる

1 市民の理解と協働の推進  
➢ 障がいを理由とする差別的解消の推進  
➢ 障がいのある人を支援する地域福祉活動推進

■ユニバーサルデザインについて  
・「見える人」「聞こえる人」という多数派を前提とする社会と商品開発などが、視覚聴覚「障がい」者の生活を困難にしている。  
■移動について  
・交通機関の整備が必要。

2 快適で安全なまちづくりの推進  
➢ ユニバーサルデザインのまちづくりの推進  
➢ 移動に関する支援  
➢ 防災、防犯に関する支援

■災害対策について  
・福祉避難所のあり方について、改めて整理する必要がある。  
・障がい者の福祉避難所の利用意向が低い理由を探るべきである。  
・地域の方と障がい者が合同で避難訓練ができると良い。  
・不安を感じている障がい者と障がい者に対する手助けが行える市民とのマッチングをするようなしくみ作りもできると良い。

だれもが自分らしく暮らせるまちをつくる